

医療で国際貢献更に

県などフォーラム 20団体参加・報告

医療を中心とした国際貢献活動を活発化させようとして、国際医療NPOの「AMDA(アムダ)」(本部・岡山市)と県が14日、「国際医療貢献フォーラム」を岡山市北区のホテルで開いた。自治体や大学、病院、NPOなどが自らの取り組みを発表した。

県は2004年に「国際貢献活動の推進に関する



大学や団体がアジアでの医療貢献活動などを報告した。岡山市北区

条例」を施行し、NPOの活動を支援している。国際貢献に取り組み団体が一堂に集まってフォーラムを開くのは県内で初めて。交流の輪を広げ、国際貢献の機運を盛り上げるのが狙いだ。

総社市や新庄村、岡山大、川崎医療福祉大、岡山労災病院、社会福祉法人旭川荘、NPO日本・ミャンマー医療人育成支援協会など約20団体の代表者らが参加した。

岡山労災病院(岡山市南区)の清水信義院長は、同病院がモンゴルで実施しているアスベスト(石棉)疾患の研修について報告した。同国ではアスベストが一般家庭でも広く使われているが、危険性があまり知られていないため、健康被害の急増が懸念されるとい

の知識やX線フィルムの見方、診断方法などを現地の医師に伝えている。今後、検診車1台を贈呈する予定で、清水院長は「少しでもアスベストの関心を高め、現地での活動を発展させた」と抱負を語った。

このほか、岡山大病院の佐野俊二教授(心臓血管外科)が、心臓病の子どもたちの命を救うためにベトナムで実施している医療技術支援活動について説明し、「日本だけではなく世界の子どもたちを救いたい」と訴えた。

アムダの菅波茂代表も、日本の先端医療技術を世界に伝え、途上国の人材育成に重点を置く考えを示した。(吉村治彦)